

# 市民共働で推進する 幸せのまちづくり

市はSDGs未来都市として今後の取り組みを進めるにあたって、「市民共働で推進する幸せのまちづくり」を掲げ、何よりも肝要である「人づくり」に注力しつつ、その達成に向けた取り組みを進めていきます。

## 市が抱える課題と 持続可能なまちづくり

SDGsをもっと知るために、市役所に聞きに行ってみよう！



こんにちは。私は「エコシヨップ」の取り組みを進めている「エコツ葉」です。市では、ごみの減量化や再生利用など、環境保全行動を積極的に実施する事業所をエコシヨップとして認定しています。郷ちゃん、育ちゃんもエコシヨップを利用してくださ

いね。今日はSDGsにおける持続可能なまちづくりについて、お話ししますね。市がSDGsに取り込む背景には、解決しなければならぬ、次のような課題があるからなんです。

### ○社会面の課題

市では住みやすいまちを目指して、福岡駅東土地区画整理事業や下水道の整備、JR福岡駅周辺の整備、国道3号沿線を中心に商業施設や事業所の誘致などに取り組んできました。その結果、一時は減少局面を迎えていた市の人口は増加に転じ、現在もそれは続いています。

けれども、市内で一人一人が増加しているわけではありません。また、過去に開発された住宅団地の少子高齢化が進展しており、郷づくりをはじめとする地域の担い手の確保が年々難しくなっています。

### ○環境面の課題

福津は海、山、川、干潟や田園など豊かな自然環境に恵まれています。これは、先人たちが守り続けてきたからこそ、得られる貴重な財産である

ことを決して忘れてはなりません。そして私たちに、この自然財産を受け継ぎ、後世へと引き継いでいく義務があります。

けれども、不法投棄の増加や河川水質の悪化など、都市生活型の身近なものから、温暖化など地球規模のもので、数多くの環境問題を抱えています。

### ○経済面の課題

市内では古くから農業、水産業が盛んであり、脈々と受け継がれてきました。

ところが、農業、水産業は、担い手の高齢化、後継者や新規就業者の不足などによって、生産基盤が大きく揺らいでいます。

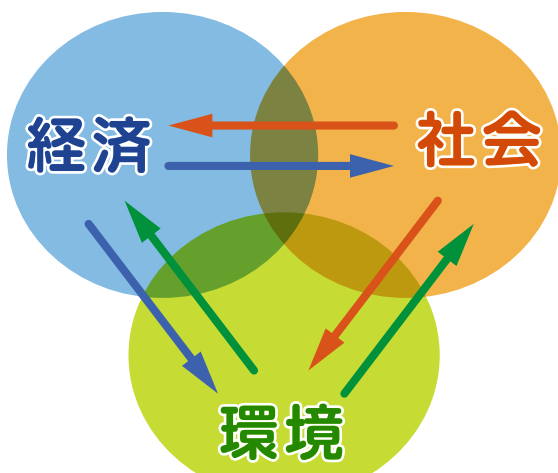
また、「九州の湘南」と評されマリンスポーツが盛んな福岡海岸をはじめとする4つの海水浴場や、全国有数の参拝客数を誇る宮地嶽神社など

の観光資源があります。観光来訪者数は2016年の調査では約562万人で、県内で6番目に多くなっています。

けれども、現状ではこれらの魅力を活かすことができていない状況です。来訪者と地域の産業を結びつけることで地域経済の好循環を生み出すことが必要です。



市が抱える課題を社会面、環境面、経済面からみてきました。SDGsではこの3つの課題を統合的に解決することの重要性が示されています。「持続可能なまちづくり」のためにはこの3つの側面を調和させることが欠かせ



▲持続可能なまちづくりに必要な3つの側面

ません。



なるほど。経済の発展のために無理が損なわれてもいけないよね。自然環境を守ることは大事だけど、そのためには地域の暮らしも守らないといけない。どれかひとつというわけにはいかないね。

## 市民共働で推進する 幸せのまちづくり



市では、これら3つの側面の課題を解決するために、次の3つの基本方針のもとで取り組みを進めていきます。

### 基本方針の3つの柱

地域を担う人財育成  
共働による環境の保全・創造  
地域経済の基盤の確立



市ではSDGsを市民、事業者、行政など、市内外のさまざまな関係者が、自分の立場や領域を超えて、共に幸せな地域の未来の姿を描き、その実現に向けて、みんなで共働して取り組むチャレンジであると考えています。

市内にはSDGsは意識せずとも、これまでこうした考えを持って地域の課題解決に取り組んできた人たちがたくさんいます。今回は5月に開催した「ふくつSDGsシンポジウム」で紹介してもらった事例を通して、SDGsを考えてみましょう。

## ふくつSDGsシンポジウムで支え合いの取り組みを紹介

ふくつSDGsシンポジウムを5月16日に開催しました。この中では「福津における支え合いの取り組み」と題して、次のような事例の紹介がありました。

### くらしのサポートセンターサックスの取り組み

市内には、体操、将棋、コーラスなど、介護予防につながる活動を継続して行っている団体があります。その中の1つ、宮司3区にある「サックス」は「住民が気軽に集まって介護予防につながる場所があれば」との思いから、宮司3区自治会役員、シニアクラブ「浜友会」のメンバー、地元有志らがボランティアで参加、運営しています。地域の暮らしを地域でサポートする場をつくっていること、その活動の内容などの紹介がありました。



くらしのサポートセンターサックス 代表 松見礼治さん

### NPO法人福岡ゆーあいの会の取り組み

「やさしさと真心で安心のお手伝い」を活動方針に掲げ、25年の長きにわたり、市民互助型の在宅福祉サービスとして、高齢者の在宅支援と自立を組織的に支え合い、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援を行っています。介護を取り巻く環境が大きく変わる中で、そのニーズに合わせてさまざまな事業の展開を行ってきたことなどの紹介がありました。



NPO法人福岡ゆーあいの会 理事長 吉田典子さん

### あんずの里市利用組合の取り組み

あんずの里市が誕生したのは、生産者が直接消費者に新鮮な農作物を売る機会を作りたいとの思いから、30人ほどの農家の女性が立ち上がったことがきっかけでした。当時は今のような建物はなく、軽トラックの荷台に野菜や果物、花などを並べて販売していた青空市であったこと、また、あんずの里市のような直売所は全国に先駆けての取り組みで、手探り状態でのチャレンジであったことなどの紹介がありました。



あんずの里市利用組合 元組合長 井ノ口ツヤ子さん



▲大勢の人が熱心に聞き入ったシンポジウム

皆さんの活動の内容はさまざまですが、地域を良くしようという熱意がすごいね！私もそう思う！市民共働で取り組むことこそがSDGにつながるっていいんだね。